

# ラオス洞窟探検調査 2018 報告

## Cave Expedition to Laos 2018 by J.E.T

近野由利子 (CHIKANO, Yuriko) Japan Exploration Team 所属 愛知県在住

### はじめに

2016年から毎年行ってきたラオスでの洞窟探検も、3年目になりました。毎回、手探りでの遠征ですが、一緒に行ってくれるメンバーがいるからこそ、継続できていると思います。一回行くと最低2週間の旅になるので、まともに日本で生活している人にとっては、なかなか簡単に行けないと思います。もし、2週間の休みをとれたとしても、探検遠征の場合には、普通の旅行とはまったく違う苦勞がつきもので、洞窟に入ることすらできないまま日々を費やすことも珍しくないの、「楽しいから行こうよ」と誘うことができません。

幸い、2018年は、かのNHKからの撮影隊が同行したこともあり、11名の大きなチームでの活動となり、各メンバーの力に助けられて探検を進めることができました。人の力というのは本当に偉大です。

このときに制作された番組で、私が毎年ラオスで何をやっているのか、職場の人や友人に見てもらうことができ、以前よりも周囲の理解を得ることができたのも大変ありがたいことでした。

ラオスは、東南アジアの国で、ベトナム・ミャンマー・タイ・中国に囲まれた海の無い国です。地下資源が豊富で、さらに山や川が多いために水力発電も盛んで、周辺国から資源やエネルギーの供給元として利用されています。国民はとても平和的で素朴なので、中国やタイのパワーに圧されまくっているのですが、ラオス国内では危機感は感じておらず、どちらかといえば好意的に受け止めているように感じます。行くたびに海外資本の開発が進んでいく様子を見て、変わっていくラオスの行く末を想って勝手に焦燥しています。

なぜラオスに行くようになったかですが、比較的距離が近い東南アジアで探検の可能性を探っているうちに、未探検エリアが多くて、比較的行きやすいラオスにターゲットが絞られてきました。

ただし、ラオスは探検の許可が下りにくく、古くからラオスで探検を続けている欧米のチームも、最近では、特に苦勞しているようです。彼らは、自治体から法外な許可費用を請求されるようになってきたようで、そろそろラオスは潮時だと言っています。そうはいつても、毎年どこかのチームがラオスでの探検を行っています。

欧米のチームほどではないですが、私たちも許可申請料や案内の礼金など、こまごまと支払うコストが発生するので、物価の安いアジアと言っても、遠征のたびにお金がかかります。普通の観光ツアーではないので、クー



ラオス人民共和国 地図

ポンもディスカウントもないし、費用の相場も決まっていません。

### ■許可申請

外国で探検活動をする上では、活動内容に応じて、政府や自治体の許可が必要かどうかを確認しなければいけません。洞窟に限らず、調査の対象が何であっても、外国人が測量・サンプル採取などを行うことを好ましく思わない国が多く、中には立ち入りすら制限される場合もあり、ラオスも外国人が立ち入れるエリアは限られています。外国人の立ち入り許可区域を政府のウェブサイトで公開している国もありますが、いずれにせよ、遠征を計画した時点で、予定の活動が問題ないかを事前に調べるべきです。

どうやって調べるか、ですが。対象の国にケイビング団体があればラッキー、そこに問合せます。ケイビング団体が無い国の場合は、その国を探検したことのある海外のチームを探して問い合わせることができます。それもなければ、現地のツアー会社に相談するのが良いかと思えます。